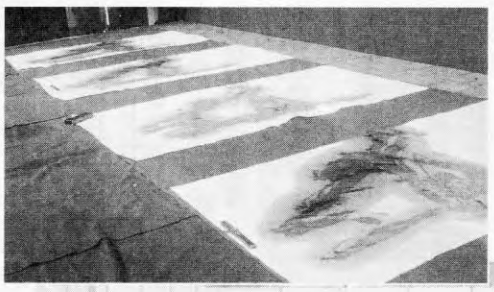
日華連会報

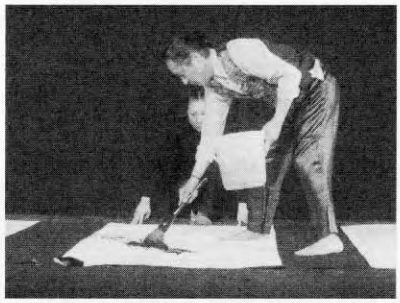
中華総商会会報

第127号

墨アートの世界



作品



華道大学　海老原露巌先生



国民文化祭参加者

一般社団法人日本華道連盟

東京都新宿区百人町2-18-20　☎03-3369-3769

発行人　塚　越　応　鐘

編集人　渡　邉　華　凰

平成27年度

幹部会並びに華道大学講座

平成27年7月26日(日)　浅草ビューホテル

幹部会　―駒形の間―

午前十時三十分から、長田華鳳事務局長の司会で幹部会が開催された。武井美恵副理事長の開会のことばに引き続き、塚越応鐘理事長から、「きょうはこの夏一番暑い日で東京は37度になるようです。この酷暑の中、皆さん集まっていただきありがとうございます。百花繚乱展は二回目を迎えました。会場構成がガラリと変わり、気分改たに素敵な華展になったと思います。今年も皆さんの協力の下、ご意見を聴いて、事業計画の中に取り入れて進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。」と挨拶があった。定款により理事長議長のもと議事に入った。

議事項目

一、二〇一五年第十回時代を彩るいけばな百花繚乱展事業報告
…井口理香副理事長

動員数一万五千人余り。役員の先生方を筆頭に受付担当の方々、いろいろな方のご協力により、好評の中、終了いたしました。

＊今回は一階だけで全部納まったので観やすかった。そのため控室が狭くなったが作品が優先である。

二、平成二十八年度事業計画案について
…岡野闘華齋企画部長

・平成二十八年度総会並びに新年会　一月十七日(日)　正午～
〔京王プラザホテル錦の間〕



◀理事長挨拶

▶幹部会

・華展説明会　二月二十二日(月)
午後一時～　〔日華連会館〕
・第十一回時代を彩るいけばな百花繚乱展　四月八日(金)～十一日(月)　〔新宿パークタワー〕
・幹部会　七月二十四日(日)
午前十時三十分～
華道大学講座　午後一時～
〔浅草ビューホテル〕
・第三十一回国民文化祭・愛知
…不参加
・研修旅行…未定

三、二〇一六年第十一回時代を彩るいけばな百花繚乱展について
…長田華鳳事務局長

・会場は新宿パークタワーにほぼ決定
・出瓶料は数千円値下げする。
・華展説明会は二月二十二日(月)
・大作をもう少し増やしたい。

四、第三十回国民文化祭・かごしま二〇一五について
…岡野闘華齋企画部長
長田華鳳事務局長

〔十一月十三日(金)～十六日(月)　鹿児島アリーナでいけ込み、その後、指宿方面・国定公園甑島(こしきしま)観光〕

今年度の鹿児島までは文部科学省の持つブースがあり、こちらが要求を出すと場所や席の準備をしてくださいました。今回の鹿児島は、すべての市町村で何らかの文化的事業をするくらい意気込んでいます。しかし来年（愛知）からは、場所（アリーナ的な所）は確保しますが、そこの設営その他は団体ごとに準備（有料）してくださいと言われました。これでは中央から行く団体は無理な話です。再来年の奈良も同じやり方でするそうです。という理由で残念ですが不参加となります。日華連は、今まで30回中、26回参加しました。

五、その他

（日華連ホームページアドレス
http://www.nikkaren.sakura.ne.jp）
（日華連メールアドレス
nikkaren@nikkaren.sakura.ne.jp）
・原稿が来る所が限られています。
・ホームページを是非ご覧下さい。
・どんな小さな華展・出来事でもご投稿ください。

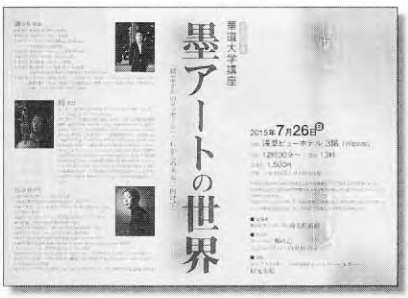
最後に議事総括があり、井口理香副理事長の閉会のことばで会は終了した。

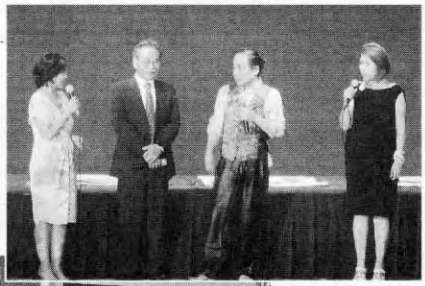
華道大学講座 ―祥雲の間―

今年は舞台構成も変わり、どんなパフォーマンスが始まるのだろうと楽しみに待っていると館内放送が入りました。「火災が発生いたしましたので、係員の指示に従って避難してください。」会場は騒然となりましたが、皆さん落ち着いて一階のロビーに避難しました。

暑い中、待っていると、ホテル側から冷たいおしぼりが提供され緊迫の雰囲気が和みました。

しばしの後、怪我人もなく問題ないということで会場に戻りました。（ホテル二十六階のレストラン厨房のダクト内部から出火し、排気口を通じて煙が出たそうです。）







華道大学講座の様子

防炎上、長時間の講演はできないそうですが、アナウンサーの原元美紀さんの司会で講演が始まりました。

第一部　パフォーマンス

民族楽器による、楯直己氏のエキゾチックで幻想的な音楽が流れる中、海老原露巌氏が舞台いっぱいに置かれた四枚の和紙に、次々に異なる行書体で「道」の字を書き上げていき、続いて、白浜利司子氏による間伐材で製作されたドレスを着た、まるで妖精のようなモデルさんが現れ、そのドレスに露巌氏が、こんどは手を筆代わりにして白とゴールド色で大胆な字を描きあげました。

落ち着かない雰囲気の中にも関わらず、見事な作品が完成し、会場からは、大きな拍手が湧き起こりました。



第二部　座談会

（海老原露巌氏、楯直己氏、白浜利司子氏、塚越応鐘氏）

それぞれの出会いの話。三人でのコラボは今日が初めてとの事。ビデオ映像と共に十数年前にマレーシアの森の中に毛氈を担いで行き「樹」の字を書いた話。写真家藤井秀樹先生との思い出等々の話に盛り上がりました。

先生方は今日の講演のために、一年前から準備をしてくださったそうです。これを思うとおもいがけない出来事で大幅に時間が短縮し、本当に申し訳なかったと思いますが、私たちは十分に楽しませていただきました。ありがとうございました。

最後に岡野闘華齋先生のお礼のことばで会は終了いたしました。

今回の講演で海老原露巌先生が皆様にお伝えしたかったこと

墨アートの世界

―精霊への回帰／未来へのメッセージ

私たちは「植物」と生きてきました。海は「母」であり、そして「友人」ではないでしょうか。

「植物」は、私たちの生きる糧になりますが、それだけではなく私たちの生活に彩りを与えます。皆様が研鑽されている「華道」はまさに「植物」の力を使った芸術です。また「墨」も「植物」の力の結晶ともいえます。

しかし、私たちは「太古の森」を「母」や「友人」に例えることに、ためらいを覚えます。何故ならば、「太古の森」には威厳があり、怖れの対象でもあるからです。「太古の森」には、私たちを魅了する「生命力」や「神秘」に満ち溢れています。これらを少しでも表現することができれば、というのが本日の講演の端緒となっております。

（配布資料より）

華道大学講座　司会

テレビ朝日「モーニングバード」レポーター



原元　美紀さん

七月二十七日のテレビ朝日「モーニングバード」で放送しましたが、昨日、浅草ビューホテルでボヤ騒ぎがありました。なんと私、火災発生中、ホテルにいたのです！

華道連盟のイベントの司会で訪れたのですが、まもなく始まろうとしたその五分ほど前、消防車のサイレンが鳴り響きました。サイレンはこともあろうに、私のいた控え室の真下の路地で止まりました！え⁉まさかこのホテルで火事？

すると、向かいの民家の人がこちらに向かって「ホテルの上の階で煙が出ている」とジェスチャーで知らせてくれました。そんな、まさかっ！もうイベント開始時間なので会場には二〇〇名を超えるお客様がいます。

どうなるんだろう？と思っていたら、館内放送で「二十六階で火災が発生。全館避難となります。」とアナウンスされると同時に、ホテルの従業員の誘導で一階ロビーへ避難。

私はすかさずiPhoneで撮影。すると、イベントスタッフが「リポートするなら撮りましょうか」と申し出てくれ、ここからは司会モードからリポーターモードへスイッチ切り替え！ビデオカメラをかついでもらって避難の様子や外に出てホテルの外観を取材しました。

どうやら厨房から出火&煙があったらしく、上を見上げると消火活動の水が降ってきました。ホテルをぐるりと一周し、三〇分ほどして再び建物内へ入ると、エスカレーターが動いていて、みな荷物を取りに部屋へ戻るところでした。どうやら「鎮火しました」との館内放送があったとのことで、緊迫感は和らいでいました。

私のイベント会場も八割ほどのお客様が戻っていて、ホテルの指示を待っています。しかし、なかなかホテルからの報告もないので、主催者や出演者がイベント中止のご挨拶をしながら、許されるところまでパフォーマンスを披露。

今日のために一年かけて準備したことを三〇分の短縮バージョンでやることになってしまいましたが、この会場の一体感は凄まじいものでした！

圧倒的な迫力の墨アートの海老原露巌先生。間伐材で「太古の森の精霊」をイメージしたドレスを作成したデザイナーの白浜利司子さん。そして、パーカッションの楯直己さんとボーカルの永倉秀恵さんが幻想的な音楽で盛り上げます。

パフォーマーとお客様の集中力がうねるような気を呼び、数百年も前の中国の墨を使って半紙やドレスに次々と甲骨文字が刻まれていきます。墨は刻々と私たちの目の前で色合いを変えていき、まるで生命を宿しているようです。今日この瞬間だからこそ生まれた空間でした。

結局、パフォーマンスを出し切った直後に、「硝煙のため空調とエレベーターを切ったので、イベントはここまで」と要請が入りましたが、やりきった私たちはなんとも言えない恍惚感でした。

そして私はテレビ朝日へ戻り、取材報告をしたのでした。

さて、今回火災発生中の建物内にいて疑問に思ったことが二点。

①非常ベルが鳴らなかったコト

防災アドバイザーによると、「パニックを防ぐため、非常ベルは火災発生階と直上階しか鳴らさない設定の所がある」とのこと。

②エスカレーターで避難したコト

避難誘導時、エスカレーターが動いていて、たくさんの人が使用したが、「本来は非常階段を使用すべき。途中で電気が止まったら将棋倒しになる危険性が高いこと、非常階段なら消火・硝煙に対応しているから」

いざという時のために、覚えておくと良いかもしれませんね。

それにしても、振り返ってみると、私がこれまでのアナウンサー人生で遭遇したどんな現場よりも会場のお客さんたちが冷静だったように思います。そこにはきっと「華道」が関係しているように思えるのです。

ただ花を愛でるのではなく、「道」を極めようとする人たちの覚悟や品格のある振る舞いが見られました。華道連盟は生花を通じて人としての在り方を学ぼうとされている方たちの思いが集まったところなのでしょう。そんな皆さんの作品をいつか見てみたいと思わせられ、私にとっても特別な経験となりました。

今後益々のご発展を心よりお祈りいたします。

流の紹介

池坊鳳秀流



理事 事務局長
長田　華鳳

池坊鳳秀流は、昭和四十年湘南の地に長田鳳秀を初代家元として誕生しました。一人の華道家として活動されていた中島六窗（りくそう）氏に師事し、弟子が増加し流派の独立の必要性に迫り、宗家中島六窗氏の肝いりで創流した次第です。

私にとっての宗家は、優しい祖父のような存在で、展覧会の度に家に寝泊まりし、本当の祖父と日がな一日お酒を酌み交わすのにまとわりついていた記憶が蘇ります。

初代家元の長田鳳秀は、日華連創立会員として日本華道連盟に力を注ぎ、多くの仕事に従事して参りました。常任理事を経て副理事長の大役を仰せつかり、平成九年秋の叙勲で勲五等瑞宝章を宮中にて叙され、現在は当連盟の相談役として第一線を後進に譲りました。私、二世家元長田華鳳は十歳の頃より華道家としての指導を受け、当連盟の青年部長として活動する傍ら地元の華道協会の改革に尽力しました。現在、藤沢市の仕事として藤沢華道協会の会長をはじめ、藤沢市文化団体連合会会長、社会教育委員、生涯学習大学評議委員、その他多くの公的仕事に日々追われながらも、次世代育成のプロジェクトを市とともに企画・実施しております。当流は、立華・生花・自然・現代華・オブジェに至るまですべての花型を指導領域に入れ、弟子はある程度慣れてくれば、自分の好みの花型の課程を選ぶことができるシステムを取っております。年々高齢化していく華道界の未来には暗雲を感じることもあります。この時期だからこそ日本華道連盟の事務局長として連盟の創立当初の意志を大切に、流派の壁を越えて力を結集しこの難関を乗り越える努力をしたいと考えております。

群馬県だより

岡野闘華齋

私の住む群馬県は、関東地方の北西部に位置し、人口は約二〇〇万人で海を持たない内陸県です。

昭和二十二年に文化と歴史を伝えるために作られた上毛かるたは、四十四の頭文字の中に見事に言葉が織りこまれ表現されたもので、群馬で生まれ育った私たちは学生時代にそれを暗記し、記憶力の衰えた今でも答えられ絵柄が思い浮かぶ素晴らしいものです。その中の「つ」。「つる舞うかたちの群馬県」と言われているように、鶴が飛びたっていく姿に似ているということで幼子にも覚えやすい形の県です。

県庁所在地は前橋市で、ＮＨＫで放映されている「花燃ゆ」の中に登場する楫取素彦氏は、初代県令として県内の産業復興に尽力し、近来世界遺産登録された富岡製糸場存続の危機を救い、絹産業発展にも多大なる貢献をされました。又、群馬県を国内屈指の教育県に育てあげたことや、文化財の保護等、草創期の群馬県の基礎を作り上げた名県令と称されております。テレビ放映の影響もあり、県庁はもとよりあちらこちらで歴史をたどる展示資料が掲げられており、私もいつになくドラマが身近に感じられ楽しみに見ております。

そして私が生活している地、渋川市は前橋市から車で約三〇分北に向かい、本州のおよそ中心部にあたり、人間の「へそ」の位置ということで、毎年へそ祭りが催され、普段は寂しい町ですが、この日ばかりはかなりの人々が集まり驚くほどです。人口は八万八千人程で冬ともなれば赤城おろしの空っ風が吹きあれます。伊香保温泉の入り口であり、又、水上温泉方面へ向かう上越線と、草津方面に向かう吾妻線との分岐点にあり、渋川周辺にも数軒温泉施設があります。昔は三国街道の宿場町として栄え、周囲は山々に囲まれて災害も少ない静かな町ですが、残念なことに町の活性化が遅れ、車の通りすがりの町となっております。そのような状態ですから芸術・文化もあしぶみ状態で解決策が見つかりません。

渋川市周辺の華道家で組織している北毛華道会も今年で八十一年を迎えますがなかなか会員数が増えません。

時代の移り変わり、それに伴う考え方は止めようのない現実ですが、花をいけること「いけばな」が文化の流れの中で生き残って行くことを切に願う次第です。

第30回 国民文化祭 かごしま2015

平成27年10月31日(土)～11月15日(日)

国民文化祭・かごしま二〇一五に日本華道連盟は参加いたしました。

本年かごしまでは「未来に繋げる生活文化・暮らしに身近なクールジャパンが勢揃い」暮らしと共生・生活文化のフェスティバルのキャッチフレーズの下、十一月十四日からスタートいたしました。場所は鹿児島アリーナです。生け花は日華連やいけばな芸術協会、着物、お香、天吹の演奏、茶道、ごったんの演奏、文芸、盆栽、様々な分野の展示や実演、ショーなど、またグルメグランプリ、美味かもんゾーン、そして県内の文化団体による伝統工芸品、キッズコーナー等盛りだくさんのイベントが開催された。日華連ではいけばな松風、古流香和会、翠月古流、古流みどり会、都古流美和会、東華古流、松月堂古流闘華の流派、あわせて二十七名が参加し、統一材料として南国にふさわしい「ソテツ」を主に数多くの花がくばられ、皆自由に伸々とかつまた流派の特徴を生かして見事に生け上げました。一時間位で生け上がり、さすがは流派の代表者です。

その晩は城山観光ホテルという立派な宿で懇親会があり、塚越理事長のご挨拶で始まり、舞台では踊りや歌等楽しい時を過ごしました。初参加の人は皆様が家庭的でとても楽しかったと感想を述べています。翌日は国民文化祭会場に行き、午前九時三十分の開会式に参加しました。各団体の代表が舞台に上がり塚越理事長が紹介されました。十一時三十分に会場を出発し知覧特攻平和会館に行き、悲しい過去の戦争のあとを見て全員涙を流しました。二日目の宿は指宿温泉ホテル、十五日は串木野新港からフェリーに乗り上甑島に到着し長目の浜、トンボロ、里町武家屋敷跡を見学しました。そして上甑島の民宿に泊まり、食事の後、ごったん（木の三味線）で同好会の方々が子供と共に一生懸命弾いて下さいました。十六日は霧島神話の里や霧島神宮に参拝し、蒸留所では試飲や買い物を楽しみ、三時三十分鹿児島空港を後にしました。お花の片づけは井口先生、長田先生、そしていけばな松風の地元の先生方がきちっと片づけて下さいましたことに一同心から感謝いたします。皆様の生けた立派な作品が今も目に浮かびます。旅行社の佐藤洋平様にも感謝し、かごしまの旅は終わりました。

出瓶者一覧

いけばな松風

塚越　応鐘	（群馬県）	塚越　応静	（群馬県）
大倉　応澄	（神奈川県）	木村　応京	（東京都）
若原　応裕	（東京都）	向江　応礼	（東京都）
澤田　応延	（熊本県）	内尾　応栄	（熊本県）
山田　応裕	（熊本県）	松岡　応美	（熊本県）
永田　応涼	（熊本県）	橋本　応光	（熊本県）
渡辺　応緑	（熊本県）	浜崎　応爽	（鹿児島県）

古流みどり会　鵜飼理久美（東京都）

古流香和会　井口　理香（東京都）

翠月古流

渡邉　華凰	（静岡県）	田代　華晴	（静岡県）
簸田　華孝	（神奈川県）	田中　華宮	（静岡県）
田中　華幸	（静岡県）		

都古流美和会　武井　美睦（静岡県）

松月堂古流闘華

岡野闘華齋	（群馬県）	木村美馨齋	（群馬県）
宮下美雲齋	（群馬県）	小鮒美妙齋	（群馬県）

東華古流　加辺　成久（群馬県）

鹿児島アリーナ入口





オープニングセレモニー



井口理香副理事長作品



塚越応鐘理事長作品

会場の様子



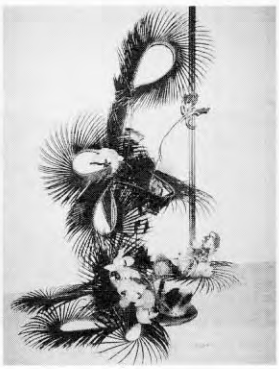
岡野鬮華齋先生作品(左)、加辺成久先生作品(右)



◀武井美睦先生作品



▶鵜飼理久美先生作品



▶海野華幸先生作品

国民文化祭に参加して

いけばな松風　若原　応裕

今年の国民文化祭は鹿児島県開催。三泊四日の旅に参加いたしました。羽田から鹿児島に到着後、会場のアリーナでいけばな松風熊本支部の笑顔に迎えられ、気持良く生け込みへと思いきや、共通花材が蘇鉄！トホホです。順調に生け始める方々の中で一人焦り、汗だくでした。生け終えホッとすると心に余裕ができ、初めて周りの先々の作品を拝見することができました。身贔屓かもしれませんが（他のブースも拝見）やはり日華連のブースはとても素敵でした。

その夜、宿泊先の城山観光ホテルで懇親会。第一目的の生け込み後なので皆様リラックスされてました。翌朝早く地震にビックリしましたが、全員何事もなく会場へ手直し見学後、市内観光へ。旅の醍醐味は何と言っても観光と食ですが、三日目の甑島では、大きな感動を得ました。釣り客しか訪れることのない離島であった所為か、荒されていない風景と純朴な人々に魅了されました。ガイドは地元のボランティアの方でしたが、謙虚で穏やかな話し方、博識多才に驚き、惹れました。一生勉強と話されていましたが、旅先でも見習いたくなる方に出会え本当に嬉しくなりました。島のゴッタン三味線保存の大人と子供たちの一生懸命な演奏。都会の住人となり、いつの間にか忘れてしまった、素朴で素直な笑顔に癒された素敵な旅となり、参加し本当によかったと実感しております。参加者の先生方とも楽しく過ごせ、羽田でお別れが名残り惜しく思いながら家路に着きました。



国民文化祭会場風景



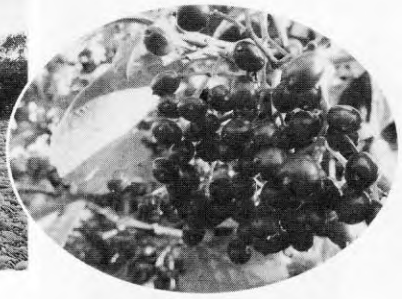


◀案内人 石原さんの話を聞く



甑島の海岸

ガマズミの実



国民文化祭に参加して

翠月古流　簸田　華孝

国民文化祭への参加は、今年が最後ということで、私は出品と旅行に初めて参加させていただきました。以前静岡では、出品するだけでした。広い会場は、いけ芸や、盆栽ありで静かな熱気を感じました。日華連はすべての作品に、ソテツを使い花が加わり、鹿児島をイメージした作品が並び圧巻でしたね。お茶席、帯結び、薩摩切子、大島紬等の展示があり、国民文化祭は日本文化の伝承まつりとも言えるのでしょうか。

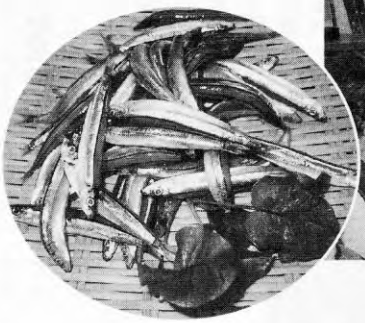
その後、市内、知覧特攻平和会館の見学、知覧は興味があった場所でした。十代・二十代の若い特攻隊員の方々が、国を想い、家族を想い戦った。私がその当時の母であったなら、死を覚悟で息子を送り出せるのか、いや生きて帰ってと祈る他なかったのでしょうか。

甑島の宿では、「ごったん」と呼ばれる木製の三味線とそっくりな楽器を使い、小学一年生から三〇代の方々七名で、島の唄や、涙そうそう、などを演奏して下さいました。

日華連の先生方とお話させていただき、本当に心に残る楽しい旅でした。



民宿での宴会



きびなご



ごったんの演奏

各地各流

第39回県民芸術祭参加
第66回 群馬県華道展

第六十六回群馬県華道展が十月十日㈯～十三日㈫に群馬県庁県民ホールで開催された。三十三流派二三六名の作品が前期・後期に分かれて展示、多くの来場者の好評を得た。

日華連加盟の出瓶流派
いけばな松風
遠州古流和松会
遠州秀月流
湖秀流
松月堂古流闘華
東華古流





いけばな松風
東京本部展

「いけばな松風 東京本部展」が二〇一五年十月四日(日)～六日(火)に新宿パークタワー一階（ギャラリー3）で開催。白と黒で構成され会場中央には塚越応鐘家元・副家元塚越応駿の大作。広さを感じさせる会場は秋色に染まりご来場の観客に楽しんでいただけた。



入口看板


会場風景

いけばな松風
秩父支部展

「いけばな松風 秩父支部展」が二〇一五年十月二十四日(土)～二十六日(月)に矢尾百貨店五階 大催事場で開催された。恒例の秩父支部展は今回で四十三回目、地元に定着した感のあるこの華展は途切れなく訪れる観客に出瓶者一同励みとなる三日間だった。





県功労者表彰 輝く35人の横顔
地域への貢献 輝く
国内外で華道普及活動

群馬県華道協会会長代行
塚越 応鐘 さん(68)

一九七一年に県華道協会の理事に就任後、常任理事、副会長を歴任して二〇一三年から現職。地元で地域文化の振興に寄与するほか、一九九八年から日本華道連盟理事長として、国内外での華道普及に尽力している。

（上毛新聞 十月二十八日より転載）

塚越応鐘理事長が群馬県功労者表彰を受賞されました

塚越応鐘 殿

華道の普及発展に尽力し
県民文化の向上に寄与されました
ここに群馬県功労者として
表彰します

平成二十七年十月二十八日

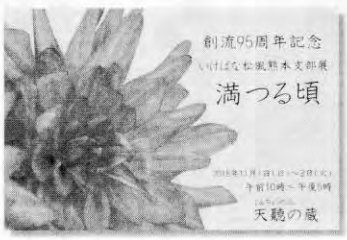
群馬県知事 大澤正明

創流95周年記念
いけばな松風熊本支部展

2015年11月1日(日)～3日(火)
熊本県山鹿市 天聽の蔵

いけばな松風熊本支部では本部に先立ち創流九十五周年記念いけばな松風熊本支部展を開催した。熊本市から車で一時間半の距離にある山鹿市での開催は当初支部会員たちを不安にさせたが、三日で千人に迫る観客に心配は徒労に終わり、記憶に残る記念華展となった。

江戸時代から続いた堂々たる佇まいの天聽の蔵には生の花々がよく似合う。その酒蔵の三つを使っ




槽蔵

中蔵では酒樽を花席に




入口となった中蔵

▶玉三郎写真展は古い蔵にマッチ



▼パフォーマンスはシャンソン歌手とのコラボ




大釜にいけられた副家元作品

て開催された。

中蔵では酒樽を花席として使い、槽蔵二階の広い空間では中央に副家元の大作と琉球畳を花席に幹部の作品を展示、大蔵では初日に行われた家元がパフォーマンスでいけた紅葉の大作をそのまま展示。大正時代のしっとりとした蔵に見事な木々の彩が鮮やかに映えた。

近くの芝居小屋、八千代座では坂東玉三郎の公演が開催されており、篠山紀信撮影の玉三郎写真展を蔵の一つ酝蔵（明治三〇年）で展示、相乗効果もあり予想をはるかに超える入場者を得ることができた。

会場の天聴の蔵は前熊本支部長の実家であり、贅沢に使わせていただけたことに感謝、廃業して五〇年この蔵を持ちこたえてこられたことに驚くが、イベントスペースとして生まれ変わった酒蔵がこれからも立派に時を刻んでくれることと信じている。

退任のご挨拶

謹啓　青葉の候　皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げますさて　私儀　この度　池坊鳳秀流創流五十周年を期し　長田華鳳に家元を引継ぐことと致しました　華道人生八十年　今日まで重責を全うできましたことは偏に皆様方の温かいご支援　ご厚情の賜と感謝致しております次期家元　華鳳はまだまだ若輩者でございます　今後とも倍旧のお引立てを賜りたく心よりお願い申し上げますまずは略儀ながら書中をもちましてご挨拶申し上げます

謹白

平成二十七年五月吉日

池坊鳳秀流　初代家元

長田　鳳秀

就任のご挨拶

謹啓　薫風の候　皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます

平素は格別のご高配を賜り篤く御礼申し上げますさて　私儀　この度　池坊鳳秀流二代目家元を引継ぐこととなりました　甚だ未熟ではございますが　一意専心　華道の発展に尽くす所存でございます

今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げますまずは略儀ながら書中をもちまして襲名のご挨拶を申し上げます

謹白

平成二十七年五月吉日

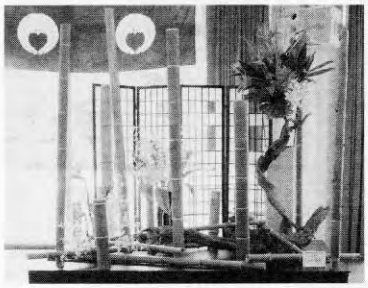
池坊鳳秀流　二代家元

長田　華鳳

池坊鳳秀流創流50周年記念
及び二世家元継承華展

池坊鳳秀流二世家元　長田　華鳳

六月二十七日・二十八日の二日間に渡り、池坊鳳秀創流五十周年記念及び二世家元継承華展が藤沢市民会館第二展示ホールで開催された。会場には二世家元による池坊鳳秀流の代表的流儀花の「葉蘭七体いけ」の一枚活けから百枚活けまでが展示された。また奥の席には黒松の古典立華・生花行流し活け、家元補佐藍秀による根大朴に板屋楓の大作、家元継嗣煌凰のオブジェ大作を初め門下生による作品が会場一杯に飾られながらも清々しさを感じる会場に来場者がのんびりとした一時を過ごしていた。会場には鈴木藤沢市長を初め、藤間副市長、星野衆議院議員、神奈川県各地区の華道団体の代表者、小武教育委員会委員長、各界の著名人も多数訪れ二世家元の船出を祝福していた。





長田華鳳先生作品





藤沢華道協会
秋の諸流展

池坊鳳秀流　長田　華鳳

九月二十四日～二十九日の六日間（前・後期）に渡り、さいか屋藤沢店五階ギャラリーにて開催された。今回は藤沢華道協会に所属する二十四流派百九十一名の参加であった。会場が催事場からギャラリーに変更されたために、静かな雰囲気ではあったが奥まった場所のため、総入場者は七二三五名といつもの入場者より少なかった。会場横での恒例の「体験教室」は、藤沢市の補助で実施しているもので、連日多くの方々が参加し楽しんでいた。また、土日には文化庁の実施する「伝統文化親子教室」の各教室の生徒が多数訪れ、会場は満員の盛況であった。日華連所属の参加者は、池坊鳳秀流の長田華鳳、長田藍秀、青木正秀、松田嘉秀、阿部詔鳳。松煌古流の大澤一煌。草月流の上原瑞光各氏である。

長田華鳳先生作品







長田藍秀先生作品



松田嘉秀先生作品

藤沢こころ道場

池坊鳳秀流　長田　華鳳



十月十二日の体育の日、藤沢市アートセンターのあるココテラス湘南で、藤沢市・青年会議所による青少年体験学習事業として「藤沢こころ道場」が開催された。藤沢市文化団体連合会会長の長田華鳳氏の「日本の伝統文化の根底にある『おもてなしの心』についての講演の後、参加者の百五十名の親子がいけばなと茶道の体験を楽しんだ。来場者たちからは『おもてなしの心』についてよく分かった。こういう企画は何度も作ってほしい。今回も抽選漏れで参加できなかった人たちにも聞かせてほしい。」と大盛況でした。藤沢市では現在官民が一体となり次世代育成のプロジェクトに取り組んでいます。





会場の様子

藤沢市芸術文化展

藤沢市文化団体連合会会長
長田　華鳳

十一月三日～八日の六日間に渡り、藤沢市民ギャラリーにて藤沢華道協会・藤沢市美術家協会・藤沢市書道協会・藤沢写真協会・藤沢フォトクラブの選ばれた作家たちによる藤沢市芸術文化展が開催された。最終日には、アーティストギャラリートークが開催され、一般入場者を含めて楽しいトークショーが展開された。初めて聞く作品の裏話や作家の意図したことなどにふれ、観覧された方々には好評であった。文化の壁と言われるハードルをどうやって取り除き、理解者を増やしていくかが藤沢市文化団体連合会の当面の課題である。



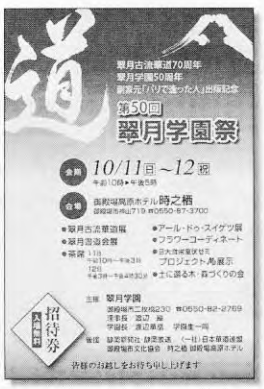


◀長田華鳳先生作品

翠月古流華道70周年によせて

翠月古流家元相談役　田代　華晴

翠月古流華道七十周年、翠月学園五十周年記念式典及び第五十回翠月学園祭、副家元「パリで会った人」出版記念を十月十一日～十二日に御殿場高原ホテルで開催いたしました。翠月古流は、七十年前に初代家元が、大東亜戦争で荒廃した焦土から一本の目が出る様に誕生させたと聞いております。この様に創流され、世界遺産の雄大な富士の裾野に根付き、七十周年を迎えることができたことは本当に感無量でございます。理事長、二代、三代家元の一方ならぬ御苦労があったことと思います。そして、皆様の御支援の賜物と感謝の念で一杯です。第五十回学園祭「道」というテーマの祝賀会では日華連理事長の塚越応鐘先生の乾





杯により、また衆議院議員の細野豪志先生にも出瓶していただき花をそえてもらいました。ソナレを花材とした翠月古流秘伝の富士流しからはじまり、ツルウメモドキ・ベニリンゴ・ケイト・など季節感あふれる作品、日本大学短期大学生のユニークなビーカーやフラスコ等実験用具を花器にして生けた作品、婦人会、子供のサークル、職場の団体、それぞれの感覚で生けた作品、また第五十会記念学園祭と言うことで退会された方々にも声をかけなつかしい作品を出瓶していただき、華道・書道、百八十点を展示、茶席も設け楽しんでいただきました。副家元が生前計画しておりましたのが音楽と文学のコラボレーションでした。その出版記念もバイオリニストの大谷康子先生のご協力により無事終了いたしました。

気高く温かな、思いやりを持って接して下さった秋元華穂副家元を思い出すコンサートでした。記念式典にご出席賜わりました皆様、ご高覧下さいました皆様、ご多用中本当にありがとうございました。



翠月古流家元作品

「パリで会った人」出版記念



秋のみどりまつり

沼津市華道連盟
会長・翠月古流　小塚　華征
翠月古流　海野　華幸

こどもいけばな体験教室
お花とふれあう素敵な時間を！

日　時：11月21日(土)・22日(日)
　　午前11時45分～
会　場：プラサベェルデ
　　多目的ホール
対象者：高校生以下





沼津市華道連盟として参加
協力しました

教室の様子



編後記

会員の皆様には益々御清祥にお過ごしのことと存じます。

今回の会報は華道大学、幹部会、そして国民文化祭が主になりました。できますなら、会報には加入の全流派の方々から原稿をいただきたいと常に願っております。どうぞ身近な流派の行事等気軽に送っていただけましたら幸いです。

二十八年はパークタワーでの展覧会も開催されますので、皆様の参加をお待ちしております。

どうぞより良き年をお迎え下さい。次回原稿は四月十日までにお願いいたします。

記録広報部　渡邉　華凰
〃　武井　美睦